

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立北方小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導力の向上では、教職員の自己評価平均3.0に対し、児童は3.8であった。年度初めに授業の流し方、「めあて」と「まとめ」を必ず入れることを全職員で共通理解、実践したことが児童の高評価につながったと考えられる。</li> <li>授業におけるICT機器の積極的な活用は教職員の評価は2年前の3.6から3.2に下がっている。一方、保護者の評価は3.4、児童の評価は3.7である。教職員は電子黒板を活用した授業はほぼ毎日(特に国語、算数)実施しているが、タブレットを活用した授業がまだまだと感じている教職員が多いからと思われる。児童にとっては、電子黒板などICT機器の活用した授業が多く行われ、わかりやすいと感じているからと思われる。</li> <li>本校では水難避難訓練をはじめ、火災・地震対策避難訓練、不審者対策避難訓練を行ってきた。昨年の大雨災害により北方町が大きな被害を受けたこともあり、命を守るための安全意識が児童、保護者ともに高まり、学校の安全指導に対する理解が高まったことがわかる。</li> <li>「次年度の取組」</li> <li>今後はICT機器の積極的な活用だけでなく、児童への情報モラル教育が不可欠である。また、PTAの会合で情報モラルについて保護者への啓発活動を行っていく。</li> <li>働き方改革を実現する上で、業務、行事の在り方を見直しの必要がある。また効率的に、より生産性を高める働き方を探る必要がある。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	かしこく やさしく たくましく ふるさと愛する児童の育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	○質の高い教育活動の推進 ・学び合い高め合う教師集団「チーム北方小」の育成 ・学力向上のための取組の推進 ○地域と共に伸び行く学校づくりの推進 ・北方町が大好きな子どもの育成 ・地域との連携 ・幼保小・小中連携
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○児童の基礎学力の向上	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学習した内容について、市販テストにおける得点率80%以上を目指す。	・学習状況調査の結果や学力向上対策評価シートを用いた研修を年間5回設定し、定期的に相互・自己評価を行う。 ・日々の学習指導において、既習内容の定着状況を把握し、適宜指導を行うとともに習熟・定着を図る家庭学習に取り組ませる。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○家族・友達・先生・地域の方々より先にあいさつを実践している児童を80%以上にする。 ○週に1回、気になる児童について職員間で情報交換する機会を設ける。 ○月に1度生活アンケートを実施し、児童の心の健康状態を把握する。	・出会った人と互いにあいさつを交わすことが、北方小のスローガン「なかよし学校日本一」の実現の第一歩であることを児童に周知・徹底させる。 ・あいさつ運動の参加者や自主的にあいさつを行っている児童を、放送等を通じて称賛し、他の児童の自発性を高める。 ・実践力を高めるために、「相手の目を見る」「一旦立ち止まる」など、場に応じたあいさつのし方を具体的に示す。 ・情報モラル教室の振り返りを掲示し、いじめをしない気持ちを内面的に高める。 ・SCの職員研修を年に1度行い、いじめの早期発見や学級の雰囲気づくりに努める。						
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童96%以上 ○朝食をとって登校する児童90%以上	・食生活調査を実施する。 ・早寝早起き朝ごはんの動行について、保健委員会の活動などを活用し、各学級で指導する。 ・食習慣や生活習慣について、掲示物やお便りを活用し、啓発する。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・職員に退勤時間を意識した業務遂行を意識させる。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○個に応じた教育の推進	○特別支援教育の推進	○特別支援教育のねらいや意義、本校での方針や取組について認識している保護者を90%以上にする。	・校内委員会や特別支援教育に関する研修会を実施することで教職員の資質向上を図る。 ・「特別支援教育だより」を発行し、保護者への啓発を行う。 ・巡回相談、通級教室、専門機関等に関する情報を保護者へ紹介し、利用を進めるとともに、SCやSSW及び養護教諭、教育相談担当者と連携しながら特別支援教育の効果や必要性を啓発していく。		
○郷土愛を育む教育の推進	◎自分が生まれ育った地域に誇りを持ち、自分の目標に向けて努力しようとする気持ちを育む教育活動の推進	◎地域に愛着を持っていると回答する児童を80%以上。	・校内研究において地域とのつながりを重視したカリキュラム・マネジメントの促進を図る。 ・総合的な学習の時間や生活科の時間に、地域の人、もの、ことを学び、地域のよさを味わえるような活動を仕組む。 ・児童へのアンケート実施。						
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・						

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------